

知覧飛行場 跡地の 戦争遺跡

1 出発線の碑(石碑)



特攻機が出撃する時は一旦出発線に近い滑走帯脇で待機し、出撃の指示を待ちます。
指示が出ると出発線に進み、離陸の合図と共にエンジンを全開にして、離陸していきました。

2 戦闘指揮所跡(石碑)



木造の建物があり、参謀など司令部要員が詰めていました。
現在の空港で言えば管制塔のような役割を担っていました。

3 なでしこ隊見送りの地



知覧高等女学校の生徒達には、特攻隊や掩護部隊への奉仕が命じられました。

そして基地の中では食事の準備や、裁縫などを行い、短い期間でしたが特攻隊員達との交流がありました。

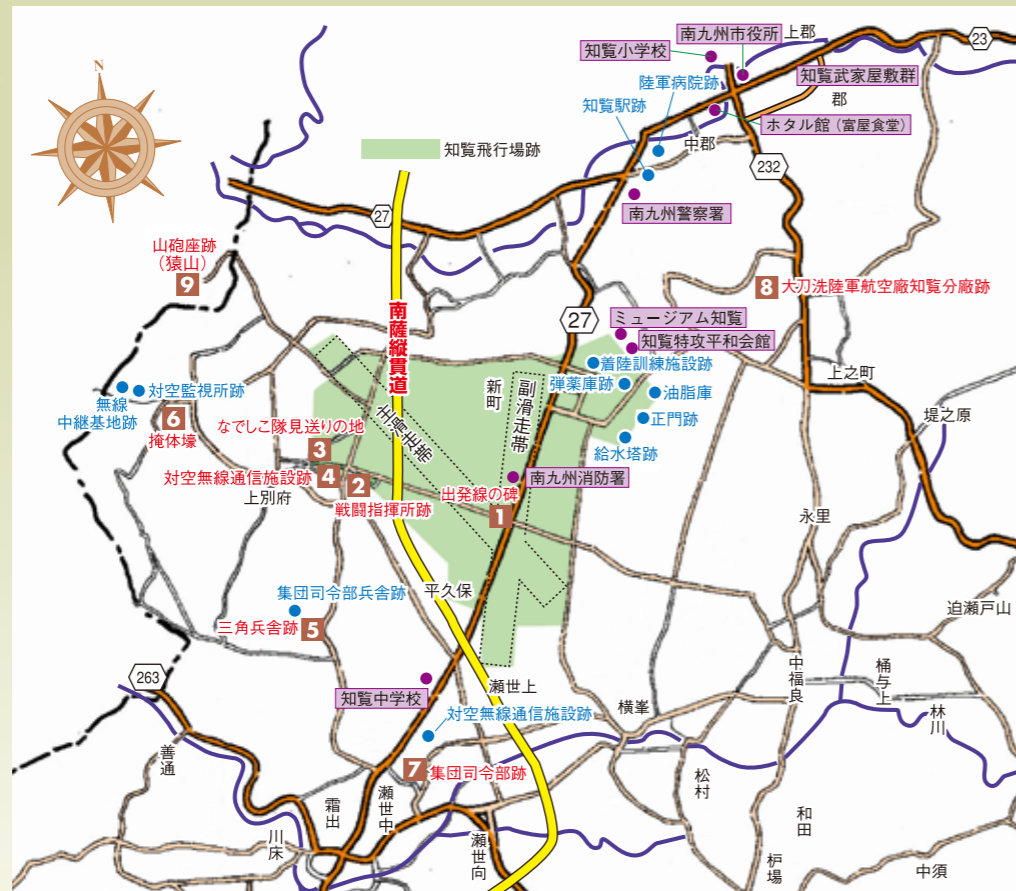
下の写真は1945年(昭和20年)4月12日、出発線に向かう第20振武隊の穴澤利夫大尉を八重桜の枝を振って見送る場面です。上は同じ場所の現在の様子です。



4 対空無線通信施設跡(石碑)



コンクリート製半地下式の壕で、特攻機から送られた無線の受信や各飛行場との連絡を行いました。
戦後、爆破されたため痕跡はありませんが跡地には石碑が建立されています。



知覧飛行場位置図

7 集団司令部跡(石碑)



第3攻撃集団の司令部として使われた壕がこの山の斜面に掘られていました。
空襲が激しくなったため、1945年(昭和20年)6月頃に川辺町の西之原に移転しました。

8 大刀洗陸軍航空廠知覧分廠跡

航空機は精密機械のようなもので常時の日常点検と定期的なオーバーホールが必要です。
分廠ではオーバーホールや故障機の修理、補給部品の製作など難易度の高い整備を行いました。



※写真は、「知覧城跡」の説明石碑になります。

9 山砲座跡(猿山)



山頂からは飛行場跡を一望でき、はるか彼方には開聞岳を眺めることができます。

戦時中はこの基地から多くの特攻機が飛び立ち、米軍からの度重なる空襲を受けました。

当時は死闘が繰り広げられた場所ですが、飛行場は長い年月のうちに畑や住宅地になっていきました。そのため、現在の景色から当時の情景を想像するのは難しいと思います。

5 三角兵舎跡(石碑)



空襲を避けるため飛行場から少し離れた松林の中に三角兵舎が造られました。

三角兵舎は半地下式木造のバラック建てで、屋根には偽装用の幼木をのせていました。ここで特攻隊員達は出撃までの数日間を過ごしたのです。

現在、その跡地には三角兵舎跡の石碑が建てられています。

また、特攻平和会館の隣には復元された三角兵舎があり、当時を偲ぶ事が出来ます。



復元された三角兵舎(特攻平和会館隣)

6 掩体壕



掩体壕とは、コの字型に土塁を築き、近くに爆弾が落ちた場合でも、その破片及び爆風から飛行機を守るためのシェルターです。

土塁の高さは戦闘機などの小型機用でも4m以上はとっていたので、Ⅲ型甲の全高は約3.2mも十分覆われるようになっていました。

1945年(昭和20年)以降、飛行場は空襲の標的にされていたので知覧に進出すると機体はすぐに掩体壕内に格納され、雑木の枝で偽装されていました。



知覧

飛行場跡地の戦争遺跡を訪ねる

